



目次

第一 俘虜ノ情報及管理業務ニ就テ

一、俘虜情報局

二、陸軍省俘虜管理部

三、俘虜收容所及軍抑留所

四、業務ノ系統

第二 我カ権内ニ在リシ俘虜及軍抑留者ノ状況ニ就テ

一、保有シアリシ俘虜及軍抑留者ノ總數及配置

二、俘虜及軍抑留者ノ取扱

三、俘虜ノ勞務利用

四、俘虜ノ動向

第三 俘虜ノ引渡ニ就テ

第四 聯合國側ニ俘虜トナリシ者ノ状況ニ就テ

第五 現在ニ於ケル俘虜情報局業務ノ状況ニ就テ

第六 結言

附表第一	俘虜情報局編制及人員表（其ノ一及其ノ二）
第二	陸軍省俘虜管理部編制及人員表
第三	俘虜業務系統表（其ノ一及其ノ二）
第四	俘虜收容狀況一覽表
第五	軍抑留者抑留狀況一覽表
第六	俘虜國籍別一覽表
第七	軍抑留者國籍別一覽表
第八	俘虜勞務狀況一覽表（其ノ一及其ノ二）
第九	俘虜引渡實施一覽表
第十	聯合國ニ俘虜トナリアル者ノ一覽表

俘虜情報局

一、俘虜情報局

第一 俘虜ノ情報及管理業務ニ就テ

情報局ハ國際法ノ規定ニ遵ヒ昭和十六年十二月勅令ニ依リ設立セラレタル帝國政府ノ一機關ニシテ陸軍大臣ノ管理ニ屬セラル、其ノ主ナル業務ハ俘虜ニ關スル諸情報ノ收集及交換ナリ、編制上ノ職員ハ長官一、事務官四、書記若干及其他、合計五十名内外（二十五名一〇〇名）ノ貧弱ナル機關ニ過キス之ヲ歐米列國ノ數千名ノ人員ト完備セル設備ヲ以テスルモノニ比スレハ天地霄壤ノ差アリ隨テ其ノ業務ノ成果ハ推シテ知ルヘキナリ

情報局長官ハ其ノ所管事務ニ付キ陸海軍ノ關係部隊ニ所要ノ通報ヲ求ムルコトヲ得又其ノ情報事務際赤十字社、敵國利益代表等ヲ通シテ敵國側ニ通報スルノ義務ヲ負フモノナリ

俘虜情報局ハ元來帝國政府ノ一機關ニシテ便宜上陸軍大臣ノ管理ヲ受クルコトトナリタルモノナルモ帝國海軍トノ關係ハ兎角圓滑ニ行カサリキ

俘虜情報局ノ編成及人員ハ附表第一其ノ一及其ノ二ノ如シ

三、陸軍省俘虜管理部

昭和十七年三月省令ニ依リ設立セラレ俘虜ノ取扱上ノ一般的計畫ニ關スル事務ヲ掌ル陸軍大臣ノ補佐機關ニシテ其ノ職員ハ全部俘虜情報局職員ノ兼任トス然レトモ陸軍省ノ傳統タル軍務局萬能主義ノ爲メ管理部ハ實質的ニハ獨立性ヲ失ヒ恰モ軍務局ノ一附屬事務室タルノ奇現象ヲ生シ自主潑刺タル活動ヲナシ得サリキ又經理衛生、法務等ノ専門事項ハ各擔任部局ノ掌ル所タリ

三、俘虜收容所及軍抑留所

1 收容所ハ各軍司令官（内地ハ軍管區司令官）ノ隸下ニ在リテ直接ニ俘虜ノ收容管理ニ任スル機關タリ、業務ノ性質上ニ於テハ陸軍省俘虜管理部及俘虜情報局ト密接ナル關係ニ立ツモノナリト雖モ直接ノ指揮關係ナシ

各收容所ハ本部及多數ノ分所及派遣所ニ區分セラル

俘虜情報局

收容所ハ一方ニ於テハ軍部側ヨリ繼子扱ニセラレ他方ニ於テハ一般人民ヨリ白眼視セラレ其職員ハ實ニ苦シキ立場ニ在リタルハ事實ナリ

2 軍抑留所ハ戰地ニ於ケル一般抑留者ヲ收容管理スル機關ニシテ前記俘虜收容所ト同一ノ指揮系統ニ在リ、軍抑留所長ハ多クノ場合ニ於テ近傍ノ俘虜收容所長ノ兼任トス

但シ支那大陸ニ於ケル一般抑留者ハ大東亞省、内地ノソレハ内務省ノ管理ニ屬ス

3 俘虜（軍抑留者）業務系統附表第三ノ如シ

第二 我カ權内ニ在リシ俘虜及軍抑留者ノ狀況ニ就テ

一、保有シアリシ俘虜及軍抑留者ノ總數及配置

1 大東亞戰爭間我軍ノ保有セル俘虜總數ハ約三十萬（重慶軍ノ俘虜ヲ含マス）ニシテ其ノ内米、英、澳、加、蘭人等ノ白人俘虜ハ約十二萬七千ニシテ爾餘ハ原住民並自由印度人俘虜ナリ而シテ白人俘虜ハ其ノ後病死、解放、輸送途上ニ於ケル敵潜水



艦敵機ノ攻撃ニ依ル遭難等ノ爲減少シ停戦協定成立當時ノ總數ハ約十萬三千ナリ

又原住民並自由印度人俘虜ニ對シテハ國際法上ニ於ケル俘虜タル身分ヲ解放シテ大東亞共榮圈ノ建設ニ協力セシムル爲逐次解放シ停戦協定成立當時俘虜タリシ者殆トナシ

2 軍抑留者數ハ約十二萬餘ナリシモ逐次解放シ終戦時約九萬名アリ

3 俘虜ハ之ヲ内外地十七ヶ所ノ俘虜收容所ニ收容セリ其ノ狀況附表第四ノ如ク昭和十七年夏以來内地ノ生産増強ニ俘虜ノ勞力ヲ利用スル爲逐次俘虜ヲ内地、朝鮮、臺灣及滿洲ニ移入セリ其ノ數ハ約三萬二千ナリ

軍抑留者ハ現地抑留ヲ本則トセリ其ノ狀況附表第五ノ如シ

俘虜及軍抑留者ハ國籍別附表第六及第七ノ如シ

右ノ外海軍及第一線作戰部隊ニ於テ保有セシ俘虜及軍抑留者若干アリ

俘虜情報局

二 俘虜及軍抑留者ノ取扱

1 俘虜取扱ノ根本方針ハ諸條規ニ遵由シ之カ適正ヲ期シ公正ナル帝國ノ態度ヲ如實ニ中外ニ顯揚セサルヘカラスト雖モ他方人道ニ反セサル限り之ヲ嚴重ニ之ヲ取締リ且ツ一日ト雖モ無爲徒食セシムルコトナク其ノ勞力特技ヲ我カ生産擴充ニ活用スルニ在リ(陸軍大臣訓示要旨)

右ノ意味ハ要スルニ俘虜ハ之ヲ優遇ニ失セス又虐待トナラサル儀ニ公正ニ取扱フヘシトノ意アリト解ス、各收容所長以下本趣旨ヲ遵奉シ來レルモ四圍ノ環境ハ必スシモ希望ノ如ク實施シ得テリキ

2 俘虜ニ對シテハ俘虜ニ關スル諸條約ニ準據シ且食糧及衣類ノ補給ニ關シテハ俘虜ノ國民的、民族的習慣ヲ適宜考慮シ人道ニ基キ最モ公正ナル取扱ヲアセリ

3 俘虜ノ准士官以下ニ對シテハ條約ニ基キ之ヲ勞役ニ使役シ得ルヲ以テ其ノ階級、技能ニ應シ夫々ノ勞務ヲ課シ一日ト雖モ無爲

徒食セシメサル如クセリ  
 俘虜將校ニ對シテハ勞務ヲ強制セサリシモ彼等ノ多數ハ自發的ニ農耕作業ニ從事セリ  
 4 前述ノ如ク俘虜ノ取扱ハ最モ公正ヲ旨トシ之ニ凌辱ヲ加フルコトヲ嚴禁セルモ言語ノ不通、習慣ノ相違等ニ因リ意思ノ疎通ヲ缺キ若干非違事件アキニアラス但シ著シク度ヲ超ヘタル者ニ對シテハ相等ノ刑懲罰ヲ科シタリ  
 5 俘虜ノ給與ニ關シテハ國內舍糧事情上最モ苦心セル處ニシテ彼等ノ健康保持ノ爲有ユル努力ヲ傾注セリ  
 6 之カ爲一部國民中ニハ俘虜優遇ニ過クトノ不平不滿ノ惡聲ヲ放ツ者ヲ生セリ  
 6 俘虜ノ醫療ニ關シテモ亦最モ苦心セル處ニシテ氣候並食生活ノ相違、醫藥品ノ國內全面的不足等ヨリ必スシモ満足スヘキ状態ニアラサリシモ俘虜病院ノ設置、皇軍軍醫以下衛生部員並地方醫師ノ活躍、陸軍病院、俘虜使用者等ヨリノ醫藥品ノ補給等ニ依リ銳意努力ヲ拂ヒ極力衛生成績ノ向上ニ努メタリ

俘虜情報局

特ニ傳染病ハ泰ニ於ケル特殊事情ヲ除キ殆ト發生ヲ見ス皇軍防疫陣ノ強力サヲ發揮セリ  
 俘虜ノ死亡相當數ナリシハ戰鬪直後極度ニ疲勞セル多數ノ俘虜ヲ一時ニ收容セルニ拘ラス宿營、給與並醫療ノ施設之ニ伴ハサリシ一時ノ現象ニシテ眞ニ已ムヲ得サルニ因レルモノナルモ其ノ後大ニ改善セラレ死亡者數著シク減少シ最近年度ノ如キ八月間平均約四〇〇名ノ死亡ニテ收容人員ニ對シ約千分ノ四ノ低率ナリ  
 特ニ本件ハ比島ニ於テ著シク收容當時ノ死亡數八月間平均二百名ナリシモ昭和十八年十九年度八月間死亡者數十名内外ノ良成績（收容人員約一萬人）ニテ皇軍ノ努力絶大ナルヲ證シテ餘アリ

三、俘虜ノ勞務利用

前述ノ如ク俘虜ハ條約ノ示ス處ニ依リ勞務者トシテ使役シ得ルヲ以テ南方占領地ニ於テハ主トシテ道路、鐵道ノ建設工事、農園作

業等ニ使役シ内地ニ於テハ主トシテ石炭、鑛山造船一般工業、荷役等ニ使役セリ、而シテ俘虜ハ勞務者トシテ適格ヲ具ヘ其ノ效率ハ邦人一般勞務者ニ比シ遜色ナク且克ク規律ヲ守リ與ヘラレタル仕事ニ對シテハ極メテ忠實ナルヲ以テ至ル所ニ於テ賞讃ヲ博シ相當ノ成果ヲ收メテ我生産増強ニ相當ノ寄與ヲ爲セリ

日本内地ニ於ケル俘虜ノ勞務概況附表第八ノ如シ

四 俘虜ノ動向

1 歐米人ノ俘虜ニ對スル觀念ハ我國民ト著シク相違シ極メテ寛大ナリ、サレハ俘虜モ俘虜タルコトヲ些モ恥トセス寧ロ俘虜タルノ名譽ヲ認メ俘虜タルノ權利ヲ主張シ自己ノ將來ニ對シ不安ヲ覺ユルカ如キ者ナシ、而シテ與ヘラレタル勞役ハ新ニ課セフレタル義務ト考ヘ日本人式ニ利敵行爲ト考フルコトナク忠實ニ服務セリ

隨テ徒ニ管理者ニ反抗シテ自己ノ身命ヲ賭スルカ如キハ自發的行爲殆トナク克ク皇軍ノ威令ニ服シ規律ヲ守リ俘虜引渡迄殆ト

俘虜情報局

惡質計畫的ナル犯行等ナシ

2 逃走ハ俘虜ノ義務ナリトノ觀念ハ彼我共通事項ナルモ外地ニ於テ稍惡質ナル逃走數件アリシ他特ニ内地ニ於テハ惡質ナルモノ殆トナク勞務ヲ忌避シ發作的ニ逃走ヲ企タル小事件ノミナリ

3 俘虜ハ前述ノ如ク克ク管理者ノ命ニ服シ極メテ從順ナリ殊ニ停戦ノ報ヲ知ルモ依然平穩ニシテ殆ト從前ト異ル所ナシ

但シ神戸、大阪、大牟田等ニ於テハ管理ノ徹底ヲ缺キ俘虜ノ行動穩當ヲ缺キ自由行動ニ出アタル者アルハ甚遺憾トスル所ナリ

4 俘虜ノ一部ニハ俘虜ノ取扱過酷ニ失シタル少數ノ收容所職員ニ對シ反感ヲ有シアルカ如キモ一般ニ收容所長以下ニ對シテハ好感ヲ有シ感謝ノ意ヲ表シアリタリ、然レ共解放ニ方リテハ後脚ヲ砂ヲ蹴ル式ノ供述ヲアセルモノアルカ如シ

俘虜ニ對スル一般邦人ノ敬愾心相當深刻ナルモノアリシハ今次戦争ノ様相特ニ無差別都市爆撃及原子爆彈等ノ殘忍且非人道的行爲ノ激増ニ伴ヒ己ムヲ得サリシモノアルモ我ヨリ故意ニ俘虜



ニ危害ヲ加ヘタルコト殆トナシ、隨テ俘虜ハ一般日本人ニ對シ  
著シク惡感情ヲ有セサルカ如シ

### 第三 俘虜ノ引渡ニ就テ

一、八月十五日停戰命令ニ基キ俘虜管理部長直ニ俘虜ノ勞役ヲ停止シ  
之ニ優遇ヲ加ヘテ保護シ待機ノ姿勢ニ在ラシムル處置ヲ講シ一方  
外務省及國策赤十字駐日代表部等ト協議シ俘虜引渡ニ關スル下準  
備ニ着手セリ

二、停戰協定ノ條項ニ於テ其ノ成立ト共ニ俘虜ヲ解放シ之ヲ速ニ聯合  
軍ノ指示スル引渡港ニ輸送シテ先方ニ引渡スコトニ定メラレタル  
ヲ以テ内地ハ大本營及日本政府マニ當リ外地ハ現地軍ニ於テ各當  
該方面進駐ノ聯合軍ト協議シ適宜實施スルコトニ定メラレタリ

三、八月三十日以來横濱ニ於テ聯合軍最高司令部及米第八軍ノ俘虜係  
ト交渉シ日本内地ノ俘虜引渡ニ關シ先方ノ要求ニ從ヒ我方ノ計畫  
準備ニ必要ノ修正ヲ加ヘタル上鐵道輸送ヲ實施セリ、此間ニ於ル  
帝國運送省鐵道係ノ努力ハ多大ナルモノアリタリ

### 俘虜情報局

四、引渡業務ハ各方面ノ努力ニ依リ内地及外地共概ネ迅速圓滿ニ實施  
セラレタリ

日本内地ノ俘虜引渡ノ概況附表第九ノ如シ

五、内地各處ノ引渡業務モ概ネ迅速圓滿ニ實施セラレタルモ米海軍ノ  
專壇ニヨリ正式ノ交渉ニ先チ恣ニ東京近傍ノ俘虜ヲ強刀ヲ以テ奪  
取セル事件ヲ生シタリ又一部ノ俘虜ハ統制ニ服セス勝手ニ收容所  
ヲ離レ或ハ奪掠ヲ恣ニスル等ノ事件ヲ生セリ  
國際赤十字社、日本赤十字社、利益代表國外交官等モ熱心ニ協力  
セラレコトヲ附言ス

### 第四 聯合國ニ俘虜トナリシ者ノ狀況ニ就テ

大東亞戰開始以來昭和二十年八月十五日迄ニ聯合國側ニ俘虜トナリ  
タル日本軍人軍屬ニシテ情報局ニ既ニ通報越シノモノ約二萬名ニシ  
テ未通報ノモノモ相當數アル見込ナリ、既通報越ノ者ヲ案スルニ其  
多クハ傷病者及軍屬ナリ而シテ之等ニ對スル帝國政府及軍部ノ態度  
ハ默殺的ニシテ僅ニ先方ヨリノ通報ヲ俘虜情報局ニ於テ保管シ所要



方面ニ極秘裏ニ通達スルニ止メアリ  
終戦迄ニ通報ヲ受ケタル者ノ状況附表第十ノ如シ

第五 現在ニ於ケル俘虜情報局業務ノ状況ニ就テ

既述ノ如ク從來俘虜情報局ト陸軍省俘虜管理部トハ二位一體トナリ  
テ業務ヲ遂行シ來レル處ナルカ大東亞戰爭ノ終結ニ依リ聯合國俘虜  
ハ全部解放セフレタルヲ以テ俘虜管理ノ實體ハ消滅セリ 茲ニ於テ  
管理部ハ昭和二十年十一月三十日附陸軍大臣ノ命ニ依リ廢止セラレ  
其ノ殘務整理ハ俘虜情報局ニ於テ行フコトナレリ  
俘虜情報局ハ從來ノ滯滞ヲ回復シ敏速ニ事務ヲ處理スル爲メ並ニ聯  
合側ノ諸要求激増セル等ノ爲メ從來ノ機構ヲ約三倍ニ擴張シ大馬力  
ヲ以テ業務ニ從事シツ、アリ  
現在ニ於ケル主ナル業務左ノ如シ

- 1 俘虜情報業務ノ繼續
- 2 聯合軍側其他ヨリノ諸調査、照會、問合セニ對スル應酬
- 3 俘虜虐待ニ關スル戰爭犯罪容疑者ノ裁判ニ對スル辯護資料ノ提供

俘虜情報局

4 在外帝國俘虜ニ關スル事項

5 舊俘虜管理部ノ殘務整理

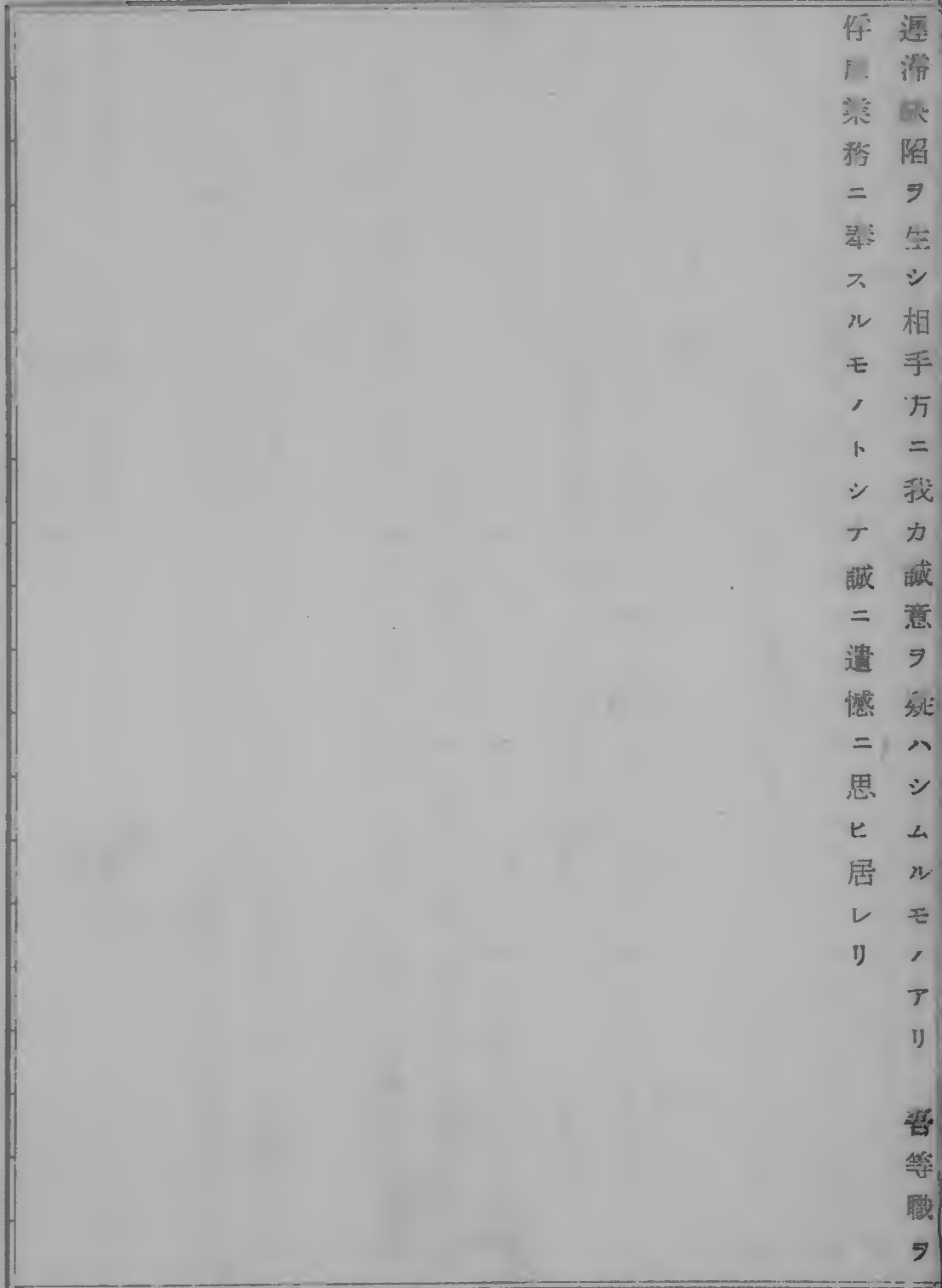
6 其他

昭和二十年十一月六日附聯合軍最高司令部ノ命令ニ依リ俘虜情報局  
ニ現存セル書類ハ一物ト雖モ持出シテ禁止セラレ且ツ之ヲ嚴重ニ保  
管スヘキヲ命セラル  
昭和二十一年一月四日附聯合軍最高司令部ノ命ニ依リ俘虜情報局ハ  
主力ヲ東京都麹町區有樂町農林金庫ビル三階ニ移轉シ爾後聯合軍最  
高司令部ノ監視ノ下ニ執務スルコト、ナリ一月五日移轉ヲ完了セリ  
但シ主トシテ部内關係業務處理ノ爲メ谷臺上ニ分局ヲ存置ス  
一月三十日更ニ麹町區有樂町一ノ二帝國生命ビル三階ニ移轉ス

第六 結 言

之ヲ要スルニ今ヨリ過去ヲ顧レハ感慨無量ニシテ我カ帝國政府及軍  
部ノ俘虜ニ對スル認識乃至關心ハ寧ロ不十分ニシテ其管理ニ於テ遺  
憾ノ點アリシ爲メ敏則ニ惡感ヲ抱カシメ又情報業務ニ於テモ數々ノ

遲滯缺陷ヲ生シ相手方ニ我カ誠意ヲ疑ハシムルモノアリ 吾等職ヲ  
 仔用業務ニ奉スルモノトシテ誠ニ遺憾ニ思ヒ居レリ



附表第一其一

俘虜情報局編成及人員表

區分	人員	編成定員人員	（三〇八員調）	摘要
長官	一	一		
事務官	五	五		外ニ兼勤事務官アリ
判任（書記）	若干	一二		
雇傭人	若干	九九		
計		一一七		

俘虜情報局

附表一其ノ二

區分	時期	俘虜情報局人員ノ變遷狀況				
		編成	昭一七	昭一八	昭一九	昭二〇
長官	當初	一	一	一	一	一
事務官	六月	四	五	五	五	一
附高等官						九
判任官		三	六	六	一	三六
雇傭人		一七	一六	一八	七七	一一〇
計		二五	二八	三六	九四	一七〇
	昭二一、二、五調					
	昭二〇七月					
	昭一九一二月					
	昭一八六月					
	昭一七六月					
	當初					

俘虜情報局

附表二

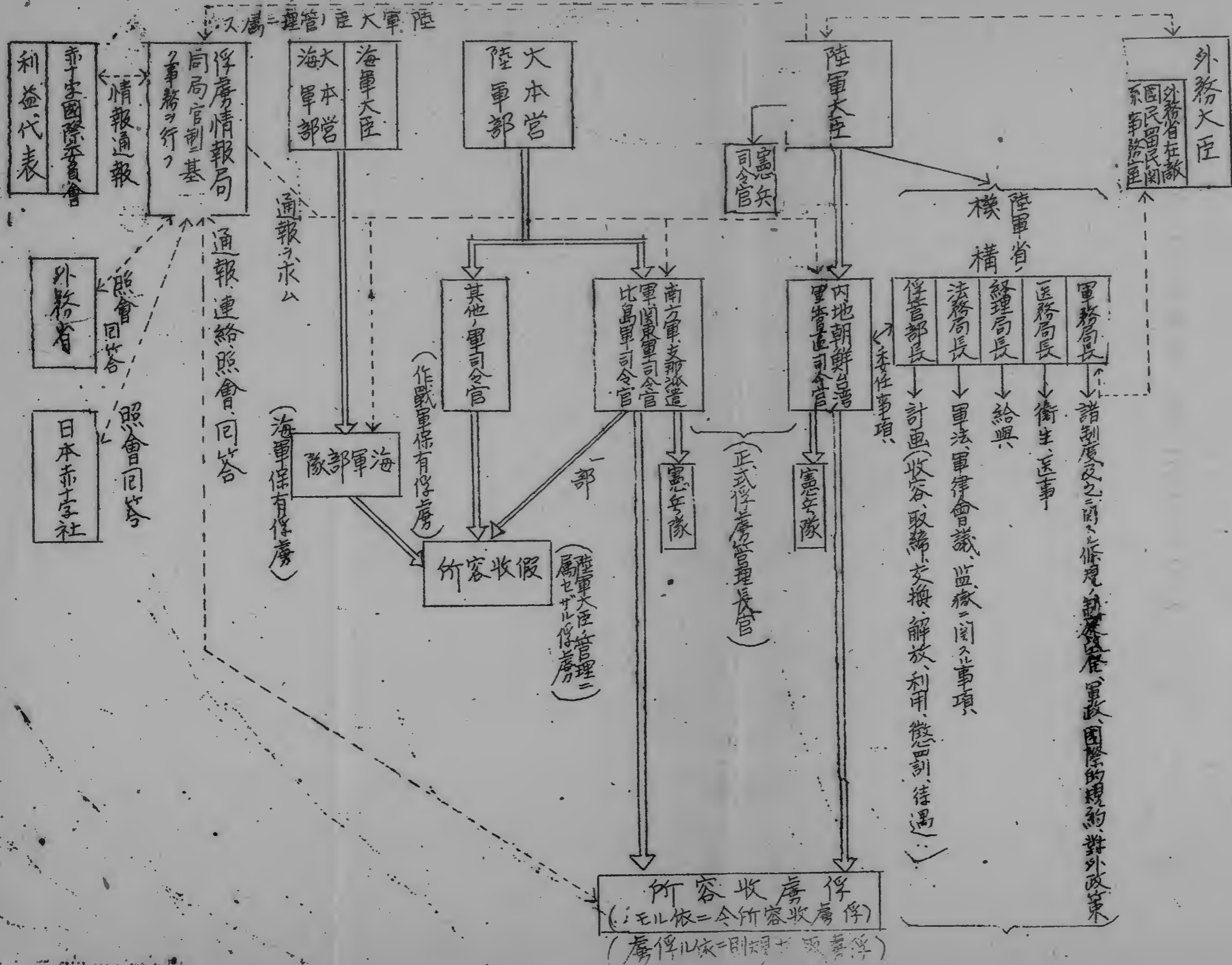
陸軍省俘虜管理課編制及人員表		人員(二〇、八、二五)	摘要
區分	編制定員		
部長	一		
課長	一		
判任官	五		俘虜情報局職員ノ兼務シアリ
下士官	五		
同(増加配屬)	一		
雇傭人			俘虜情報局雇傭人ノ兼務トシアリ

附表第三其(一)

俘虜業務系統及任務概要

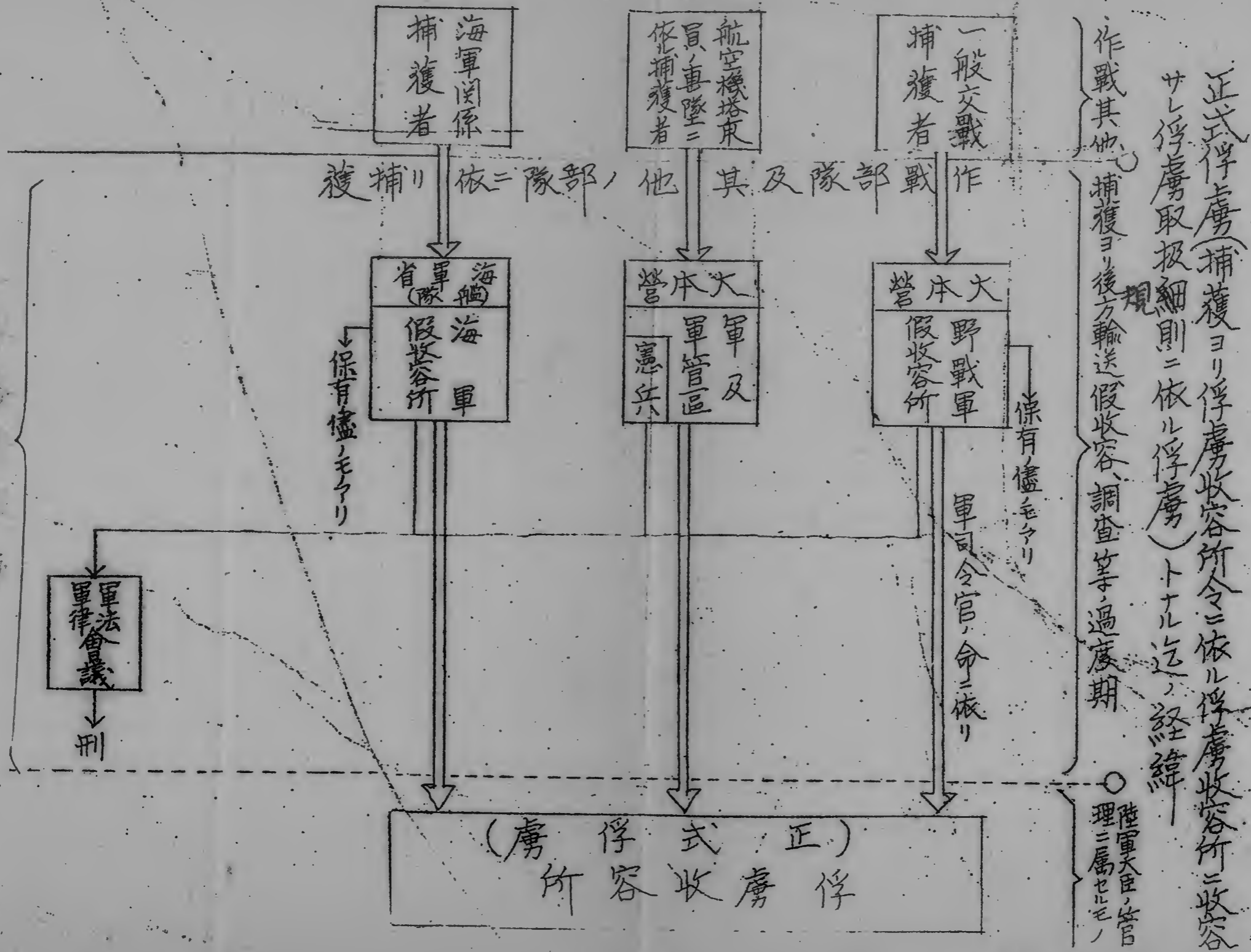
凡例 1. ↓ 隸屬指揮系統

2. ↑ 聯絡通報照會系統





附表第三其二



正式俘虜(捕獲)ヨリ俘虜收容所令ニ依ル俘虜收容所ニ收容  
 サレ俘虜取扱細則ニ依ル俘虜(トナル迄) 経緯  
 作戰其他 捕獲ヨリ後方輸送假收容 調査等 過渡期  
 陸軍大臣、管  
 理ニ屬セルモノ

俘虜情報局

附表第四

俘虜收容所名

收容所名

收容所名

俘虜收容所本所所在地名

地	内	收容所名	收容所名	俘虜收容所本所所在地名
函館	仙臺	一、二七九	北道空知郡美唄町二六〇ノ一	
	東京	三、八〇九	岩手縣和賀郡栗江尻町	
	名古屋	五、八四八	東京都大森區入井町	
	大阪	三、三三八	愛知縣名古屋市榮區南堀町	
	廣島	四、二五七	大阪府三島郡新田村字下新田	
	福岡	二、九六〇	廣島縣三原郡手村(縣立戸手實業學校内)	
計		一〇、四二七	福岡縣筑紫郡太宰府町(太宰府市民學校内)	
詳		三二、二〇五		京城府青葉町
		六八〇		

考	地	計	備考
	奉天	一、二四八	一、
	上	一、七〇九	二、
	香	一、六八九	三、
	馬	三四、四九二	四、
	爪哇	二二、三二三	五、
	ボルネオ	六、一一七	六、
	計	七二、二七四	七、
	計	一〇三、四七九	八、
			九、
			一〇、
			一一、
			一二、
			一三、
			一四、
			一五、
			一六、
			一七、
			一八、
			一九、
			二〇、
			二一、
			二二、
			二三、
			二四、
			二五、
			二六、
			二七、
			二八、
			二九、
			三〇、
			三一、
			三二、
			三三、
			三四、
			三五、
			三六、
			三七、
			三八、
			三九、
			四〇、
			四一、
			四二、
			四三、
			四四、
			四五、
			四六、
			四七、
			四八、
			四九、
			五〇、
			五一、
			五二、
			五三、
			五四、
			五五、
			五六、
			五七、
			五八、
			五九、
			六〇、
			六一、
			六二、
			六三、
			六四、
			六五、
			六六、
			六七、
			六八、
			六九、
			七〇、
			七一、
			七二、
			七三、
			七四、
			七五、
			七六、
			七七、
			七八、
			七九、
			八〇、
			八一、
			八二、
			八三、
			八四、
			八五、
			八六、
			八七、
			八八、
			八九、
			九〇、
			九一、
			九二、
			九三、
			九四、
			九五、
			九六、
			九七、
			九八、
			九九、
			一〇〇、

一、俘虜收容所名ハ本所名ヲ示スモノニシテ各々ニ乃至十數ヶ分所ニ分置配置シ生  
 産方面ノ勞働ニ從事シアリタルモノアリ  
 二、本表ノ外ニ實數管理ニ關シアリタル俘虜一、六九五名アリ

俘虜情報局

考	軍抑留所名	抑留者數	抑留狀況	軍抑留所所在地名
	上	三三七		北支那河北省豊臺
	香	二、九一		香港新柱
	馬	四、二三		南
	スマトラ	一一、六六		フンバン
	ボルネオ	六四四		クチン
	爪哇	七〇、六八四		ジャカルタ
	計	九〇、二二七		

本表 海軍捕虜管理ニ關シアルモノニ、四七三名アリ

附表第六

国籍	俘虏者	国籍別一覽表	要
亞米利加	一三、七二三		
西利	三九、一七		
支那	六二		
支那	三一、一六		
支那	一四、〇四		
支那	一、四七〇		
支那	二、九四		
計	一〇三、〇二二		

要

附表第七

国籍	軍抑留者	国籍別一覽表	要
亞米利加	一三六		
英吉利	七、九九三		
支那	五二		
支那	五七七		
支那	七九、一五九		
支那	二九八		
支那	六二		
計	二、二五〇		
計	九〇、五二七		

俘虜情報局



附表 八 其ノ一

内地ニ於ケル浮虜勞務狀況一覽表

計	所内其ノ他	土木	礦業	荷役	造船	丁業	採掘、採礦	勞務
二二、二一〇	二、四〇六	五九六	二、二一七	二、三一七	二、〇三七	二、一三三	九、八一〇	人員
	13	2	10	03	22	95	48	比率
	%	%	%	%	%	%	%	率
								捕
								要

附表 第八其二

俘虜ノ勞務狀況一覽表

昭和二〇年五月中ニ於ケル  
(一日平均人員トス)

俘虜情報局

工 業	採 採 鑛 炭															所 内	部 隊 派 遣					勞 務															
	西 貢	上 海	廣 州	汕 頭	廈 門	寧 波	南 京	東 京	函 館	廣 島	名 古屋	東 京	仙 臺	爪 哇	馬 來		泰 國	香 港	上 海	奉 天	膠 州		濟 南	名 古屋	東 京	仙 臺	函 館	爪 哇	馬 來	泰 國	香 港	收容所 人員	合 計	全 般 比 率 %			
一三五	一〇六	八八七	一七五	三九〇	三七三	一四八	五四〇	九八一	九一	四、四二八	一、六一七	一、五一三	八八三	一、三六九	九六八	一、四九九	四、五〇八	一、九〇九	二八八	三九六	四九	七三九	二二〇	七九三	四三五	二〇七	二五五	三七九	〇三〇	八八五	一一、九八五	一三一	30.780	36.7			
							3.69						9.810																								

計		工 土		製		荷		差		工		採 採		所																													
		業 木		業		役		船		業		炭		内																													
上	福	東	東	仙	西	西	東	仙	西	東	西	上	西	東	仙	ボ	爪	馬	泰	香	上	奉	奉	明	名	東	仙																
海	岡	京	岡	臺	館	館	京	京	館	岡	京	海	天	天	岡	京	才	哇	夾	港	海	天	天	洋	古	京	京																
二四〇	三四四	二五二	八九六	四二四	五七〇	三二一	二〇	一六九	四三	一、七二九	二一一	一六五	一、五〇三	三〇九	九〇	一三五	一〇六	八八七	一七五	三九〇	三七三	一四八	五四〇	九八一	九一	四、四二八	一、六一七	一、五一一	八八三	一、三六九	九六八	(四月分) 一、四四五	(五月分) 一、四三五	一〇、二二七	一、九〇九	二八八	九一	三九六	四九	七三ナ	二三〇	七九三	四三五
847	836		2.211		2.337		2.037		3.69		9.810		32.15																														
100	0.9		2.6		2.8		2.4		4.4		11.8		58.4																														





附 表 第九

俘虜引渡実施一覽表

収受所名	收容人員	引渡人員	引渡月日	引渡場所	受領人名	摘 要
東京	六〇〇〇	六〇〇〇	自九一八	横濱其他	"	
名古屋	三二二〇	三二二〇	自九一八	横濱其他	"	
大阪	四二〇〇	四二〇〇	自九一八	横濱其他	"	
廣島	二九二八	二九二八	自九一八	各九二於六	米第六軍	
福岡	二二二二	二二二二	自九一八	各九二於六	"	
朝鮮	六八〇	六八〇	自九一八	各九二於六	米第二軍	

俘虜情報局

引渡人員ノ不足七〇八名  
ハ各個ニ出所セリ  
北緯三八度以北ノ引渡  
状況不明

第十號									
帝國陸軍俘虜一覽表									
昭和二十年八月末日									
米	合	計	源	收	名	將校	下士官	兵	非軍人
マッコイ	比	布	ガイソン	マーチソン	ハ	カウラ	イ	イ	小計
	105	80	63	29	15	19			
	1	422	220	195	26	98			
	82	2517	1653	1100	103	185	309	503	
	9		2	2					
	4	10	16	99	23	67		7	
	92	175	234	217	45	115	19	38	
	23		3636	2087	102	233	119	1630	
	3244								
	211	6473	53593	763	355	713	447	226	

俘虜情報局

第十號									
帝國陸軍俘虜一覽表									
昭和二十年八月末日									
米	合	計	源	收	名	將校	下士官	兵	非軍人
マッコイ	比	布	ガイソン	マーチソン	ハ	カウラ	イ	イ	小計
	105	80	63	29	15	19			
	1	422	220	195	26	98			
	82	2517	1653	1100	103	185	309	503	
	9		2	2					
	4	10	16	99	23	67		7	
	92	175	234	217	45	115	19	38	
	23		3636	2087	102	233	119	1630	
	3244								
	211	6473	53593	763	355	713	447	226	

備考 本表中外現ハ朝鮮、上海ヲ除ク外引渡ニ關スル通報一キ爲下  
詳

計	10,107,110	11,000,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000
天	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700
港	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000
米	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
北京	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000

備考	果	直	合	他	ノ	其	合	所	サイ
ニ	計	計	計	計	計	計	計	在	パン
布	計	計	計	計	計	計	計	不	其
除	計	計	計	計	計	計	計	明	他
ヨ	計	計	計	計	計	計	計	明	他
リ	計	計	計	計	計	計	計	明	他
一	計	計	計	計	計	計	計	明	他
マ	計	計	計	計	計	計	計	明	他
ツ	計	計	計	計	計	計	計	明	他
コ	計	計	計	計	計	計	計	明	他
イ	計	計	計	計	計	計	計	明	他
一	計	計	計	計	計	計	計	明	他
ニ	計	計	計	計	計	計	計	明	他
ニ	計	計	計	計	計	計	計	明	他
管	計	計	計	計	計	計	計	明	他
ア	計	計	計	計	計	計	計	明	他
リ	計	計	計	計	計	計	計	明	他
タ	計	計	計	計	計	計	計	明	他
ル	計	計	計	計	計	計	計	明	他
モ	計	計	計	計	計	計	計	明	他
ノ	計	計	計	計	計	計	計	明	他
階	計	計	計	計	計	計	計	明	他
級	計	計	計	計	計	計	計	明	他
不	計	計	計	計	計	計	計	明	他
當	計	計	計	計	計	計	計	明	他
テ	計	計	計	計	計	計	計	明	他
ル	計	計	計	計	計	計	計	明	他
ノ	計	計	計	計	計	計	計	明	他
管	計	計	計	計	計	計	計	明	他
停	計	計	計	計	計	計	計	明	他
了	計	計	計	計	計	計	計	明	他
リ	計	計	計	計	計	計	計	明	他
ニ布除ヨリ一マツコイ一ニ管アリタルモノ階級不當ナル見込	291	10	11	11			207	21	1
	919	83	37	23		14	712	62	7
	6259	534	223	91	1	136	4496	155	89
	21		6			6	13		
	197	3	51		53	8	34	4	
	957	16	121	4		117	583	29	53
	10688	251	751	751	11	95	64473	99	619
	19312	768	1215	130	11	149	1344	890	200
							924		

供覽

一復第六六七號

明治四十年軍令第一號等廢止ノ件報告

昭和廿五年四月壹日

第一復員大臣

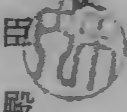
内閣總理大臣

内閣書記官不在

内閣書記官

第二復員大臣

内閣總理大臣殿



首題ノ件ニ關シ別紙ノ通制定相成リ之カ施行ヲ命セラレタルニ付報告ス

一復員